

厚生労働行政推進調査事業費補助金（長寿科学政策研究事業）
分担研究報告書

〔社会実装（自治体等）モデル検討〕

オーラルフレイル対策に関する取組事例～①広島県竹原市～

研究代表者 平野浩彦

研究分担者 飯島勝矢、池邊一典、秋野憲一、大淵修一、植田拓也、白部麻樹

研究要旨

健康維持を目的としたオーラルフレイル対策は、口腔機能低下症さらには食べる機能障害へと続く口腔の機能低下の負の連鎖に対して、早期に対応する体制整備が必要である。しかしながら、標準的な取組に関する議論が深化していないこともあり、オーラルフレイル対策の地域実装整備は進んでいない。そこで、既に介護予防・日常生活支援総合事業等でオーラルフレイル対策を実施している地域等（自治体）にヒアリングを行い、取組事例および実装する上での課題等を整理した。

竹原市では、通いの場を中心に口腔・運動・栄養の複合的な介護予防プログラムを実施しており、市の保健師と地域の歯科衛生士等の連携により、住民の多様な課題に対応する体制が構築されていた。一方で、人材不足や歯科医療サービスへのアクセスの困難さなど、支援体制やインフラ面での課題が明らかとなった。本事例から、こうした取組の標準化と地域間での展開を進めるには、持続可能な支援体制の整備が重要であることが示された。

A. 研究目的

オーラルフレイルは、日本で考案された概念であり、2014年に初めてその基本的な概念が提唱された。その後、日本老年医学会、日本老年歯科医学会、日本サルコペニア・フレイル学会による「オーラルフレイルに関する3学会合同ワーキンググループ」が2022年に設置され、2024年4月に「オーラルフレイルに関するコンセンサス・ステートメント」が公表された。

オーラルフレイルは、口の機能の健常な状態（いわゆる『健口』）と『口の機能低

下』との間にある状態である。咬みにくさ、食べこぼし、むせ、滑舌の低下などのオーラルフレイルの症状は、身体的（フィジカル）フレイル、社会的（ソーシャル）フレイル、精神・心理/認知的（メンタル/コグニティブ）フレイルなどに代表される、高齢期に生じる複数の課題が重複して生じる“口の衰え”であり、改善可能とされる。つまり、早期にオーラルフレイルの兆候を評価して適切な対策を行うことにより、機能低下を緩やかにし、さらには改善する可能性がある。

このように健康維持を目的としたオーラルフレイル対策は、口腔機能低下症さらには食べる機能障害へと続く口腔の機能低下の負の連鎖に対して、早期に対応する体制整備が必要である。また、この体制は地域で展開される介護予防・日常生活支援総合事業の一次予防に該当すると考えられる。このような背景をふまえ、全国自治体では歯科口腔保健の条例に当該対策を記載している自治体も多い。しかしながら、標準的な取組に関する議論が深化していないこともあり、オーラルフレイル対策の地域実装整備は進んでいない。

そこで、既に介護予防・日常生活支援総合事業等でオーラルフレイル対策を実施している地域等（自治体）にヒアリングを行い、取組事例および実装する上での課題等を整理することを本研究の目的とした。

B. 研究方法

1. 対象および方法

広島県竹原市市民福祉部を対象に、対面インタビューを行った。

2. 調査項目

調査項目は、オーラル対策に関する取組事例の概要、連携している機関・専門職、オーラルフレイル対策に関する取組の課題とした。

（倫理面への配慮）

本研究事業において事例を報告する旨、文書および口頭にて説明し、同意を得た。

C. 研究結果

当該市は、面積 118.23km²、人口 23,993 人（令和 2 年国勢調査）である。

1. オーラル対策に関する取組事例の概要
通いの場を含め、複数の事業を連動させた自立支援の仕組みを構築している。そのきかけの一つとして、通いの場の立ち上げ段階より、単独ではなく、口腔・運動・栄養の複合プログラムが介護予防に効果的であるという考えが担当保健師を中心とした共通認識であったことが挙げられる。

現在、通いの場は 59 ヶ所、活動頻度は週 1～2 回、約 800 名が参加登録をしている。通いの場では、介護予防体操と口腔体操の 2 つを実施している。

口腔体操の内容は、深呼吸、首の体操、肩の体操、腕の体操、口の体操、頬の体操、舌の体操、唾液腺マッサージ、発声練習、嚥下おでこ体操で構成されている。

2. 連携している機関・専門職

地区独自の歯科衛生士の団体と連携し、通いの場への支援を行っている。各通いの場を年 1 回訪問し、口腔体操の指導、質問紙（オーラルフレイルのチェック等）および口腔機能等の調査、個別の歯科保健指導（必要に応じて歯科受診勧奨）を実施している。

支援の際に課題が見つかった場合には、担当保健師と情報を共有し、必要な支援につながるようフォローアップを行っている。

3. オーラルフレイル対策に関する取組の課題

通いの場の支援を担当する歯科衛生士等の人員不足、市内に歯科医院が少なく通院が困難な住民に対する歯科医療サー

ビスの提供が困難であることが課題として挙げられた。また、住民の口腔内の課題としては、義歯の不適合や、咀嚼困難感が挙げられた。

D. 考察

本事例は、通いの場を中心にオーラルフレイル対策を進めるものであった。地域の歯科衛生士と連携することで、参加者の口腔に関する課題が明らかにしていた。さらに保健師との連携により、口腔の課題のみならず、運動・栄養・生活面の課題についても、市との情報共有がなされていた。その結果、住民の状態を問わず、必要な支援から漏れることのない仕組みが構築されていた。

一方、地域の規模的要因もあり、支援を担う人材の不足や、支援者の負担の大きさ、さらには歯科医療サービスとの接続に関する課題が見受けられた。個々の状態を把握できる体制整備は整っているものの、インフラ整備に関する課題が今後の検討事項であると考えられた。

E. 結論

通いの場を中心に、口腔・運動・栄養の複合的な介護予防プログラムを地域全体で連携して展開する先進的な取組であった。市の担当保健師と地域の歯科衛生士が連携し、参加者の多面的な課題に対応する体制が整備されており、必要な支援から漏れない仕組みが構築されていた。

本事例から、こうした取組の標準化と地域間での展開を進めるには、持続可能な支援体制の整備が重要であることが示された。

F. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

なし

G. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし